

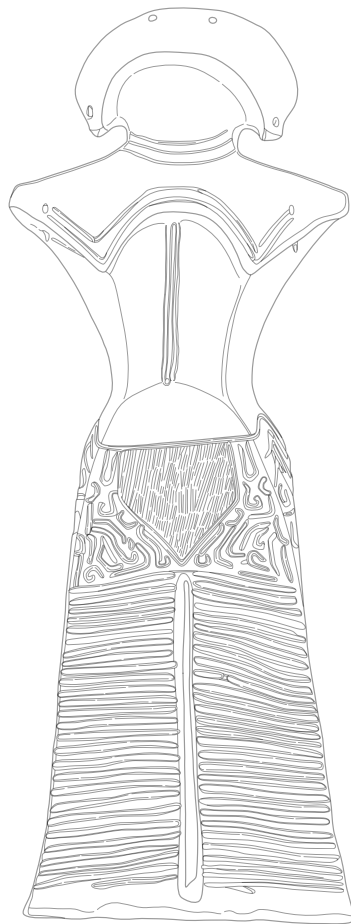
ISSN1341-397X

年 報

令和4年度

令和5年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関のご支援・ご協力をいただきながら取組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業につきましては、計画した事業の全てについて円滑に実施することができました。その概要について申し上げますと、調査事業においては、5遺跡6件の発掘調査と延べ7遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、1件の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

普及啓発事業につきましては、昨年度から山形県の委託を受け、『出前授業』や『市町村巡回展示』『発掘作業体験』『遺跡体感ツーリズム』などの事業を実施してまいりました。一昨年度から続く新型コロナウイルス感染が終息しない中ではありましたが、感染防止対策を充分に行い、多くの県民からご参加をいただきました。また、SNSやホームページによる情報発信、発掘調査遺跡の調査成果一般公開、発掘調査速報会などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆様にお知らせしてまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、今できることを工夫して普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えていけるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

令和5年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 西澤 恵子

目次

I. 管理運営概要

1. 沿革	1
2. 組織	
(1) 役員及び評議員	1
(2) 職制及び人員	2
(3) 組織	2
(4) 職員	3
3. 施設	4

II. 業務概要

1. 調査業務	5
(1) 調査遺跡一覧	6
(2) 調査遺跡の概要	
水林下遺跡 第3次	8
鶴ヶ岡城跡 第3次	12
鶴ヶ岡城跡 第4次	16
山形城三の丸跡 第23次	20
北向遺跡 第3次	24
原の内A遺跡 第4次	28
中野目II遺跡	32
杉沢C遺跡 第1・2次	33
2. 普及啓発・研究等業	
(1) 受託事業	
①出前授業	34
②発掘調査速報会	34
③遺跡・史跡パンフレット	34
④市町村巡回展示会	35
⑤体験学習会	35
⑥遺跡体感ツアーリズム	36
⑦SNS情報	36
⑧出土品貸出等	36
(2) その他	
①調査説明会・調査成果一般公開	38
②来所者	38
③職員派遣等	40
④啓蒙物品等貸出	41
⑤出版物	41
⑥ホームページ	42
(3) 研修等	42
(4) 情報処理	42

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

今年度、当センターでは山形県からの委託を受け、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「出前授業」、「市町村巡回展示」、「発掘調査速報会」、「ホームページとSNSによる情報発信」、「体験学習会」、「遺跡体感ツーリズム」の実施などの普及啓発活動にも力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	西澤恵子	山形県観光文化スポーツ部 部長
専務理事	菅原靖男	財団常勤役員
理事	石川由美	一般社団法人山形県医師会 事務局長
理事	江袋一宏	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	佐藤 譲	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課 課長
理事	渋谷孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
監事	柳野哲郎	元柳野哲郎税理士事務所所長
監事	黒木幸治	山形県観光文化スポーツ部観光復活戦略課 課長

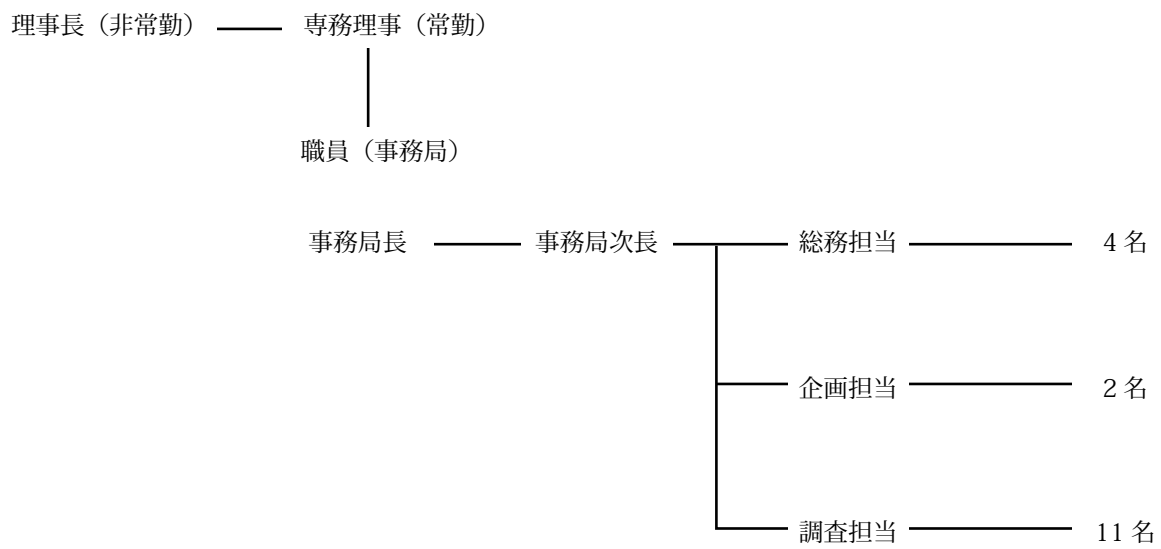
評議員	阿部好弘	山形県立博物館副館長（兼）学芸部長
評議員	遠藤友紀	公益財団法人米沢上杉文化振興財団主任学芸員
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	佐藤庄一	前 山形考古学会 会長
評議員	佐藤仁喜弥	特別法人山形県住宅供給公社専務理事
評議員	佐藤秀男	山形県農林水産部農村整備課 課長
評議員	田中慎也	山形県県土整備部道路整備課 課長
評議員	本間 豊	公益財団法人致道博物館理事（兼）学芸部長
評議員	三澤裕之	秀明大学教育研究所教授

(2) 職制及び人員

事務局長	1名
事務局次長	1名
専門調査研究員	4名
総務主査	1名
主任調査研究員	4名
主任主査	3名
事務主査	1名
企画主任	1名
事務員	3名
計	19名

(3) 組織

役員（理事会）



(4) 職員

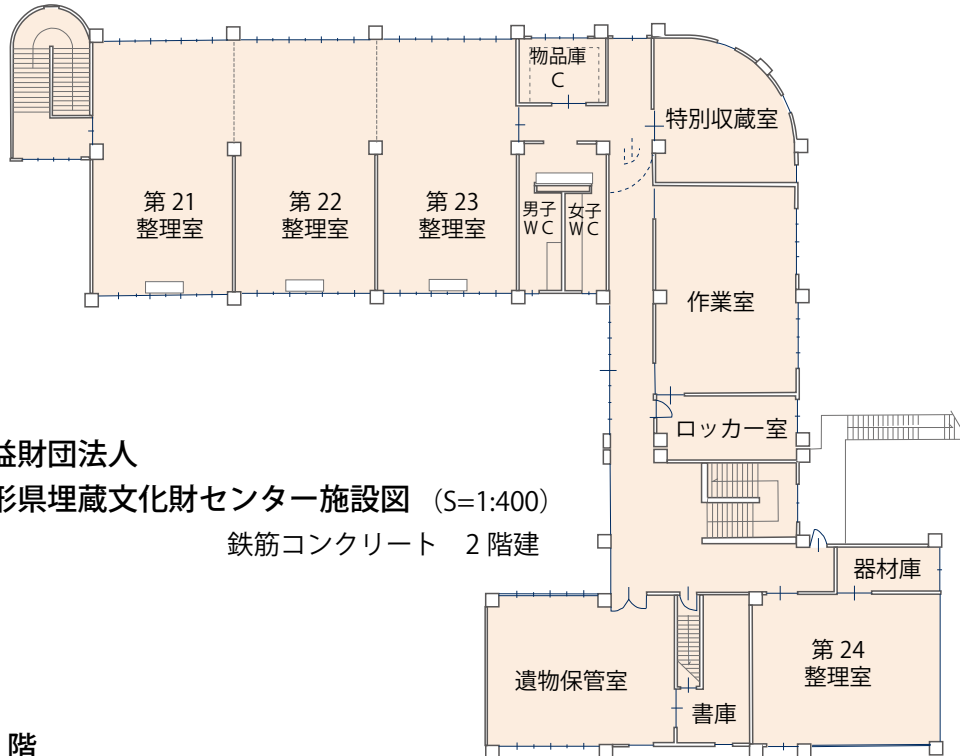
	職名	氏名	
	事務局長	須賀井新人	一般職員
	事務局次長	高桑弘美	一般職員
総務担当	総務主査	水戸部秀樹	一般職員
	事務主任	石澤治雄	任期付職員
	事務員	梅津里枝	任期付職員
	事務員	柳原 恵	任期付職員
企画担当	企画主任	黒坂雅人	任期付職員
	事務員	後藤枝里子	任期付職員
調査担当	専門調査研究員	植松暁彦	一般職員
	専門調査研究員	齋藤 健	一般職員
	専門調査研究員	菅原哲文	一般職員
	専門調査研究員	高桑 登	一般職員
	主任調査研究員	大場正善	一般職員
	主任調査研究員	草野潤平	一般職員
	主任調査研究員	天本昌希	一般職員
	主任調査研究員	渡辺和行	一般職員
	主任主査	齊藤主税	一般職員
	主任主査	氏家信行	一般職員
	主任主査	小林圭一	一般職員

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上市市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきましたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年12月1日より、山形県上市市中山字壁屋敷5608番地に移転しました。

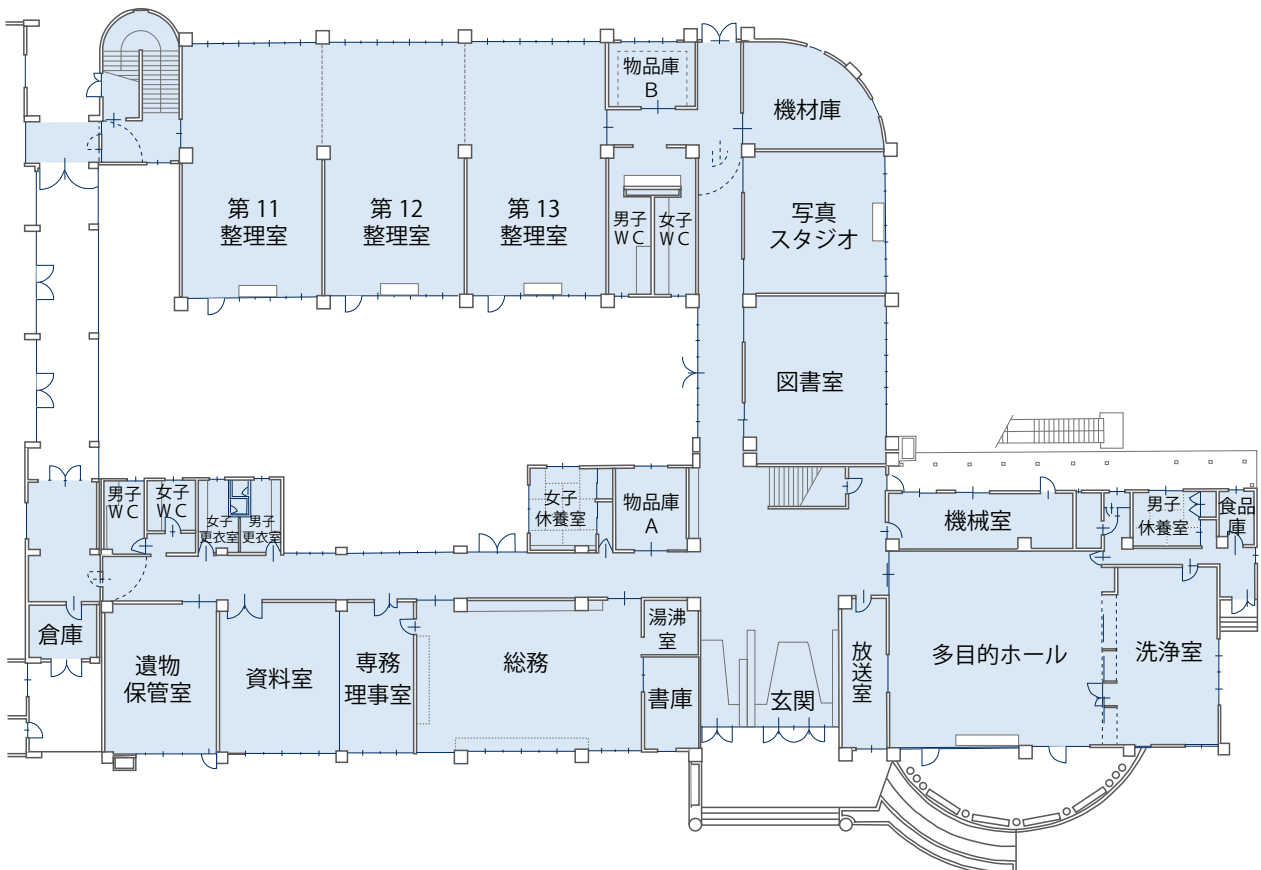
現在当所の施設は、以下の通りになります。

2階



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター施設図 (S=1:400)
鉄筋コンクリート 2階建

1階



II 事業概要

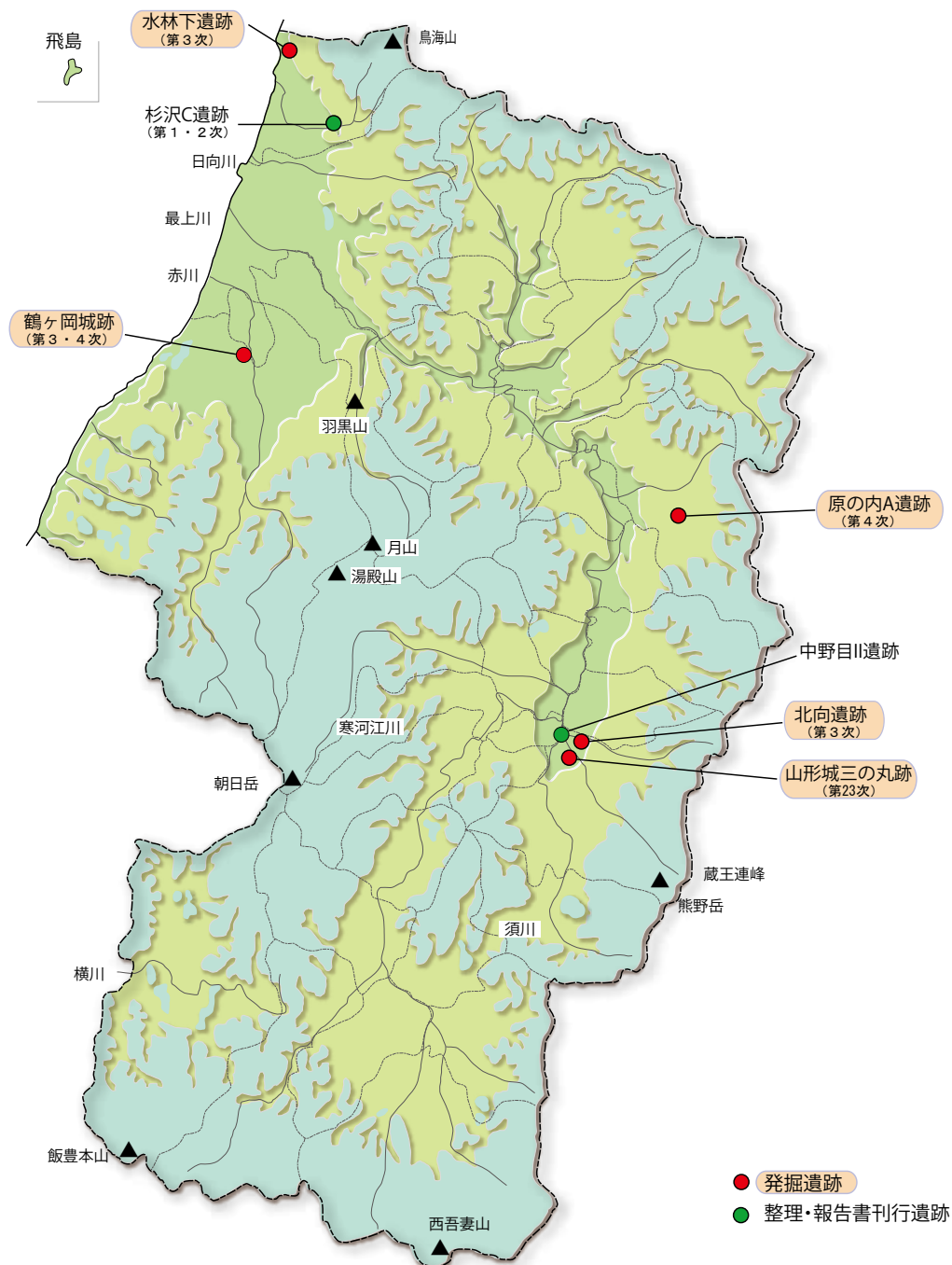
1. 調査業務

令和4年度は、国土交通省および山形県から委託を受け、道路建設、農地整備事業等に先だっでの発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は5遺跡6件について行い、総面積は6,813㎡になります。出土品は、土器等244箱と土橋部材307点が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ2遺跡について実施し、その内1遺跡1冊の発掘調査報告書を刊行しました

令和4年度 発掘調査遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種類	調査期間
1	<small>みずばやしした</small> 水林下遺跡 (第3次)	遊佐町	旧石器・縄文 奈良・平安	集落跡	6月7日～9月9日
2	<small>つるがおかじょう</small> 鶴ヶ岡城跡 (第3次)	鶴岡市	近世	城館跡	6月1日～8月31日
3	<small>つるがおかじょう</small> 鶴ヶ岡城跡 (第4次)	鶴岡市	近世	城館跡	5月26日～10月31日
4	<small>やまがたじょうさんのまる</small> 山形城三の丸跡 (第23次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月6日～11月25日
5	<small>きたむかえ</small> 北向遺跡 (第3次)	山形市	奈良・平安 中世	集落跡	5月18日～10月28日
6	<small>ほらうち</small> 原の内A遺跡 (第4次)	尾花沢市	縄文	集落跡	10月3日～11月30日
7	<small>なかのめ</small> 中野目II遺跡	山形市	古墳 奈良・平安	集落跡	
8	<small>すぎさわ</small> 杉沢C遺跡 (第1・2次)	遊佐町	縄文 中世・近世	集落跡	

調査面積 ：平方 m	文化財認定 箱数：箱	起因事業〈委託者〉	業務内容			調査経費：円
			発掘	整理	報告書	
1,140	10	一般国道7号遊佐象潟道路 〈国土交通省〉	○	○	—	52,885,800
300	25	山形県立庄内中高一貫校（仮称） 整備事業 〈山形県教育庁〉	○	○	—	49,507,700
153	16 他部材 307 点	街路整備事業（防災・安全交付金） 3・6・1号道形黄金線 〈庄内総合支庁建設部〉	○	○	—	85,822,000
1,250	39	山形広域都市計画道路事業 3・2・5号旅籠町八日町線 〈村山総合支庁建設部〉	○	○	—	69,965,000
3,280	16	一般県道東山七浦線 〈村山総合支庁建設部〉	○	○	—	62,989,300
690	138	農地整備事業（経営体育成型） 鶴子六沢地区 〈県観光文化スポーツ部・農林水産部〉	○	○	—	30,000,000
		須川河川改修 〈国土交通省〉	—	○	—	21,488,500
		農地整備事業 （杉沢前田地区） 〈県観光文化スポーツ部・農林水産部〉	—	○	○	30,000,000
6,813	244					402,658,300

みずばやしした 水林下遺跡（第3次）

遺跡番号	461-078
調査次数	第3次
所在地	山形県飽海郡遊佐町吹浦字水林下
北緯・東経	39度06分19秒・136度52分53秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起回事業	一般国道7号遊佐象潟道路
調査面積	1,140㎡
受託期間	令和4年5月1日～令和5年3月31日
現地調査	令和4年6月7日～9月9日
調査担当者	大場正善（現場責任者）・氏家信行
調査協力	遊佐町教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	旧石器、縄文、奈良・平安
遺構	石器集中部・フラスコ状土坑・竪穴建物跡の可能性のある遺構・焼土土坑・柱穴
遺物	石器、縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器（文化財認定箱数：10箱）



遺跡位置図（S = 1:25,000）

調査の概要

水林下遺跡は山形県と秋田県との境にある遊佐町の女鹿地区に位置している。遺跡は鳥海山の国定公園内にあたり、東に鳥海山、西には日本海が広がる。遺跡が立地している地形は、約9万年前に鳥海山から噴出した大平溶岩より古い溶岩台地上の可能性が考えられる。

本遺跡の調査では、調査区を工程に沿って3つに分け、第1～2次調査までにA区・B区・C区東・C区西の調査、およびC区北の表土掘削が終了している。今年度の第3次調査は、C区北で検出された遺構の調査と、B区

とC区間の未調査区（以下、旧石器調査区）の調査を行った。

C区北では、遺構を掘り下げ、遺構の平面や土層断面、遺物の出土状況等を写真や三次元解析で記録するという順序で調査を行った。旧石器調査区においても、旧石器が出土する包含層（V～VI層）を掘り下げる前に、V層上面で確認された遺構について精査し、記録を行った。

旧石器調査区では、V層上面で確認された遺構の完掘、および記録を行ったのち、旧石器包含層の掘り下げを行った。出土した旧石器は、出土状況の写真撮影と測量機器による座標位置計測を行ったのち、取り上げを行った。また、掘り下げの際に出た土壌、とくにVI層の土壌については、2m×2mグリッドごとに回収し、整理作業において土壌の水洗別作業を行い、1mm前後のチップなどの微細遺物の抽出を行った。

発見された遺構と遺物

C区北では、遺構精査の結果、縄文時代中期初頭に該当する北陸系の新保式土器をとまなう大型の土坑2基（SK768・1021）、および9～10世紀ごろと思われる竪穴建物跡の可能性のある遺構2棟（ST709・793）、多数の柱穴・杭跡、土坑が発見された。

縄文時代中期初頭の大型土坑は、2基とも隣接し、そのうちSK768には埋土の上部で複数個体の深鉢形土器と磨石、凹み石がまとまって出土した。2基の大型土坑は、縦断面形が三角フラスコのように、底部が開口部よりオーバーハングすることから、縄文時代の遺構として多く認められるフラスコ状土坑と言える。

このほか、黒耀石製の石鏃が、古代の竪穴建物跡の可能性のある遺構（ST793）の覆土層から出土した。昨年度調査でも、C区北において縄文時代の土器や石器がわずかながら出土したことから、本調査区の近隣に縄文時代の拠点的な集落跡があった可能性が考えられる。

第1～2次調査では、C区全体で多数の土師器や須恵器、製塩土器の破片といった、古代に作られた可能性のある土器の出土が確認されてきた。そのため、本遺跡ではこれらの遺物の背後に、古代のヒトの生活の痕跡（遺構）があることが予想される。

C区北の調査では、東に傾斜する斜面地の中間部と西側において、2棟の竪穴建物跡の可能性のある遺構が発見された。2棟の竪穴建物跡の可能性のある遺構は、ともに東半分が後世の耕作などにより大きく削平されているものの、方形と考えられる。2棟ともに、南端から西端、北端にかけて、幅30cm程度の浅い溝が認められる。とくにST793では、第2次調査において溝の北西角から、完形の赤焼き土器の坏が天地逆転して伏された状態で発見された。3次調査では、その坏が出土した真下から、安山岩の亜角礫が出土した。

ST709は、南側において多量の土器片を含む焼土が拡がっているのが確認された。覆土からは、土師器や製塩土器なども発見された。ただし、カマドの正確な位置



写真1 遺跡遠景（西から）

については、はっきりとしない。

ST709・793が帰属する時期は、ともに出土した遺物から、9～10世紀代と可能性が考えられる。

このほか、フラスコ状土坑の北東に隣接する場所で、2基の焼土遺構が、旧石器調査区のV層上面で多数の柱・杭跡も確認されたが、これらの遺構が残された時期については不明である。

B区とC区東では、これまでに3.5～2.8万年前の後期旧石器時代前半期に位置づけられる石器群が発見された。とくに、第2次調査では、県内初、かつ県内最古の北陸産透閃石岩製磨製石斧が発見された。今年度は、そのB区とC区東の間の未調査区の調査となった。V層上面検出の遺構の完掘と記録が終了したのち、旧石器を包含するV層からVI層まで、鎌などで薄く削りながら掘り下げを行った。

その結果、台形石器や磨製石斧のメンテナンス等で剥離された剥片をはじめ、珪質頁岩や玉髓製の剥片、1cm未満の石器の碎片であるチップなど、500点以上の石器資料が出土した。とくに、1～2m程度の範囲にチップが集中するのが認められ、第2次調査で確認された石器分布と合わせると、この集中部が分布の中心近くにあることがわかった。この石器集中部に関しては、掘り下げた土壌をサンプリングし、整理作業において土壌の水洗別作業と微細遺物の抽出を行った。

まとめ

今年度の第3次調査では、新たに縄文時代中期初頭のフラスコ状土坑と古代の竪穴建物跡の可能性のある遺構が確認された。旧石器では、第2次調査で確認された石器出土の分布範囲がさらに南側に拡がること、またその分布範囲の中心部に微細なチップが集中することがわかった。

チップが集中する事は、この場で石器を集中的に製作していたことを示しており、炭化物や焼けた石器の存在を考えると、定住せず遊動生活を行っていた当時、一定期間この場に滞在し、生活していたことが窺われる。その中で、本遺跡で発見された磨製石斧がどのような役割を果たしていたのかについては、今後の課題である。

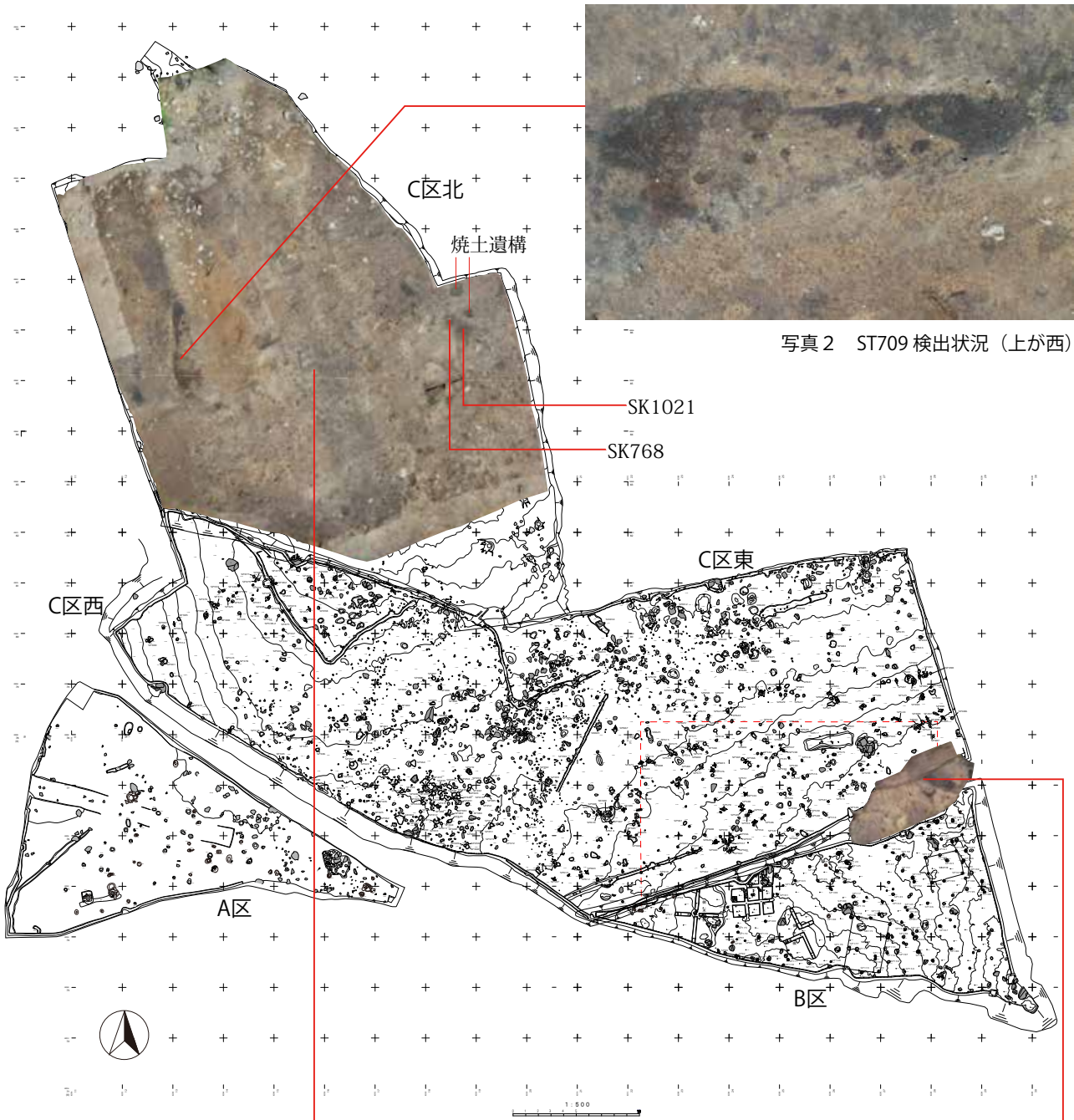


写真2 ST709 検出状況 (上が西)

図1 水林下遺跡第3次発掘調査区概要図 (S=1/500)



写真3 ST793 検出状況 (南から)



写真4 旧石器出土状況 (下が北)

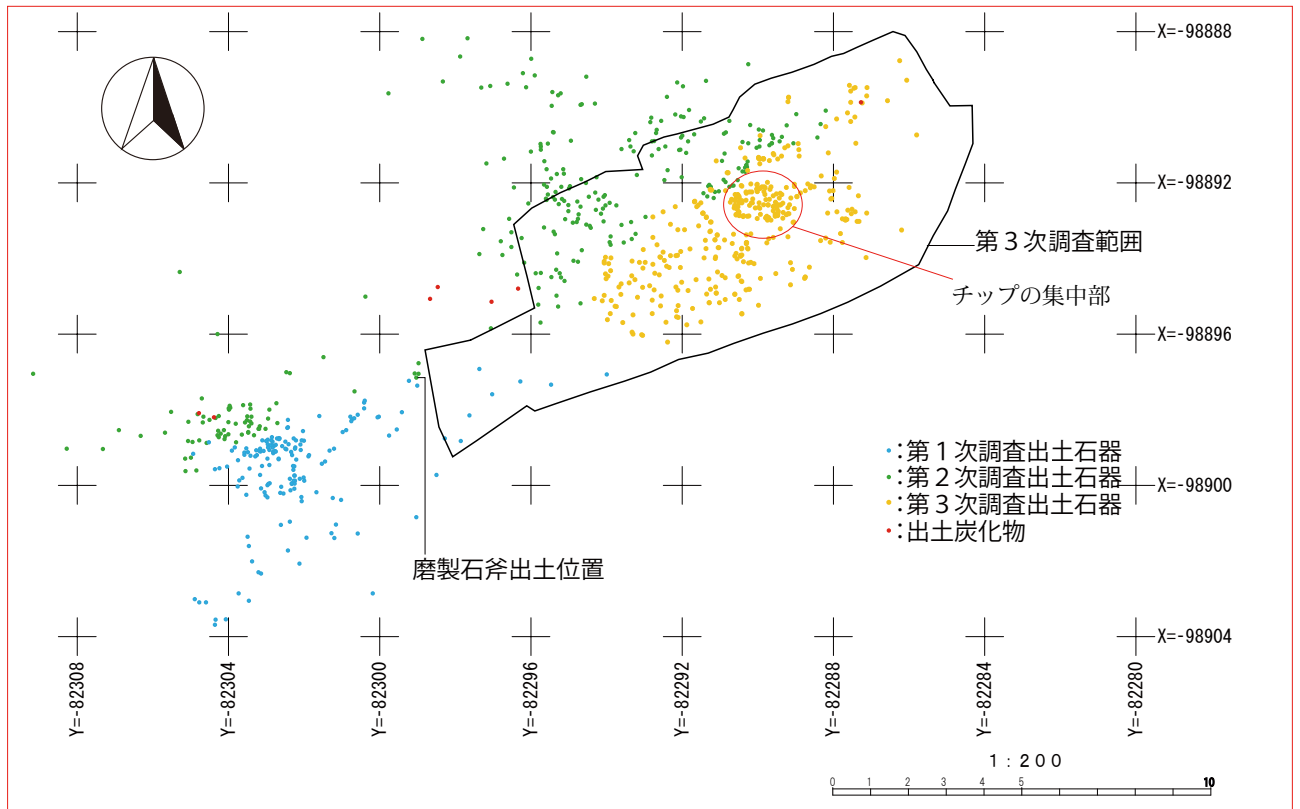


図2 第1～3次調査出土旧石器の分布図 (S = 1/200)



写真5 SK768 出土の縄文時代中期初頭の土器
と磨石、凹み石（北東から）



写真6 第2次調査出土の磨製石斧（北から）



写真7 台形石器の出土状況



写真8 第3次調査で出土した旧石器
（左が台形石器、右が磨製石斧の調整剥片）

つるがおかじょうあと 鶴ヶ岡城跡 (第3次)

遺跡番号 203-044
調査回数 第3次
所在地 山形県鶴岡市若葉町 26-31
北緯・東経 38度43分51秒 139度49分27秒
調査委託者 山形県教育庁教育政策課
起因事業 山形県立庄内中高一貫校（仮称）整備事業
調査面積 300㎡
受託期間 令和4年4月1日～令和5年8月31日
現地調査 令和4年6月1日～8月31日
調査担当者 高桑登（現場責任者）・植松暁彦
調査協力 山形県立鶴岡南高等学校・鶴岡市教育委員会
遺跡種別 城館跡
時代 近世
遺構 堀・溝・土坑・柱穴・井戸
遺物 陶磁器・木製品・金属製品・石製品（文化財認定箱数：25箱）



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

鶴ヶ岡城二の丸堀の北側には七ツ蔵と呼ばれた庄内藩の米蔵が置かれていた。現在は山形県立鶴岡南高等学校の敷地となっている。鶴岡南高の校舎を一部増築する形で庄内中高一貫校（仮称）の整備が計画され、それに伴って発掘調査を実施した。

城絵図の検討等から堀の存在が想定され、掘削深度が深くなることが予想されたため、事業範囲のうち既存校舎から約6mの範囲を除外し、既存校舎に掘削の影響が及ばない範囲を調査区として設定した。調査区は既存

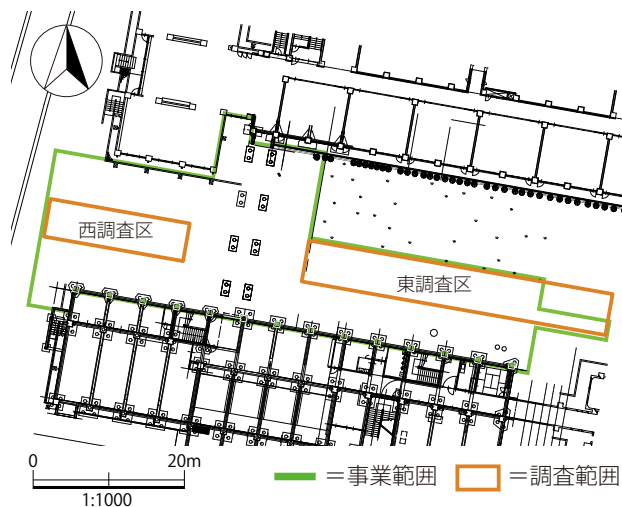


図1 調査区概要図 (S = 1:1,000)

の渡り廊下を挟んで東側を東調査区、西側を西調査区としている（図1）。

遺構と遺物

堀の検出を進める過程で、礎石とそれを据えた根石を埋設した土坑が検出されたため、その面を第1面として遺構面を設定した（図2上、写真1・2）。周辺の出土遺物や層位から近代以降の礎石であることが分かったため、礎石は重機で除去し、土坑の配置と一部の土坑の土層断面の記録にとどめている。礎石の配置と過去の学校図面の検討から、検出された礎石は昭和16年（1942）

に竣工した鶴岡中学校に伴うものと考えられる。

一部の土坑では根石中に礎石が埋め込まれ、前段階の建物の礎石が根石として転用されていたことが分かった(写真3)。根石上に据えられていた他の礎石と埋設された礎石には、柱部分を平坦に加工する共通の特徴が認められ、同時期の礎石の可能性が高い(写真4)。このことから、根石上に据えられていた礎石も、前段階の建物から転用されたものと考えられる。前段階の建物は、明治30年(1897)に建設され昭和13年(1939)に火災によって焼失した荘内中学校(のちに鶴岡中学校と改称)の建物か、あるいは、それ以前の七ツ蔵に伴う建物の可能性がある。

第2面で七ツ蔵の堀(SD001・SD501)を検出した(図

2中、写真6・7)。東調査区は調査区の大半を近代の溝(SD101)によって破壊されており、わずかに遺存していた堀の斜面と調査区壁面の土層断面で堀の東岸を確認した(写真8・9)。SD101は堀の埋没後に堀から堀外にかけて掘削されていること、掘削後、短期間に埋め戻されていること(写真5)等から、学校建築前に堀埋没後の軟弱な地盤から排水するための地盤改良の痕跡と考えられる。

東調査区の東半部では、SD101の南北で堀外の武家屋敷に伴うと考えられる近世の遺構を確認している(写真10)。東調査区の西半部ではSD101より深い部分でSD001の堀底を確認したが、調査区壁面崩落の危険から一部の掘り下げにとどめている。

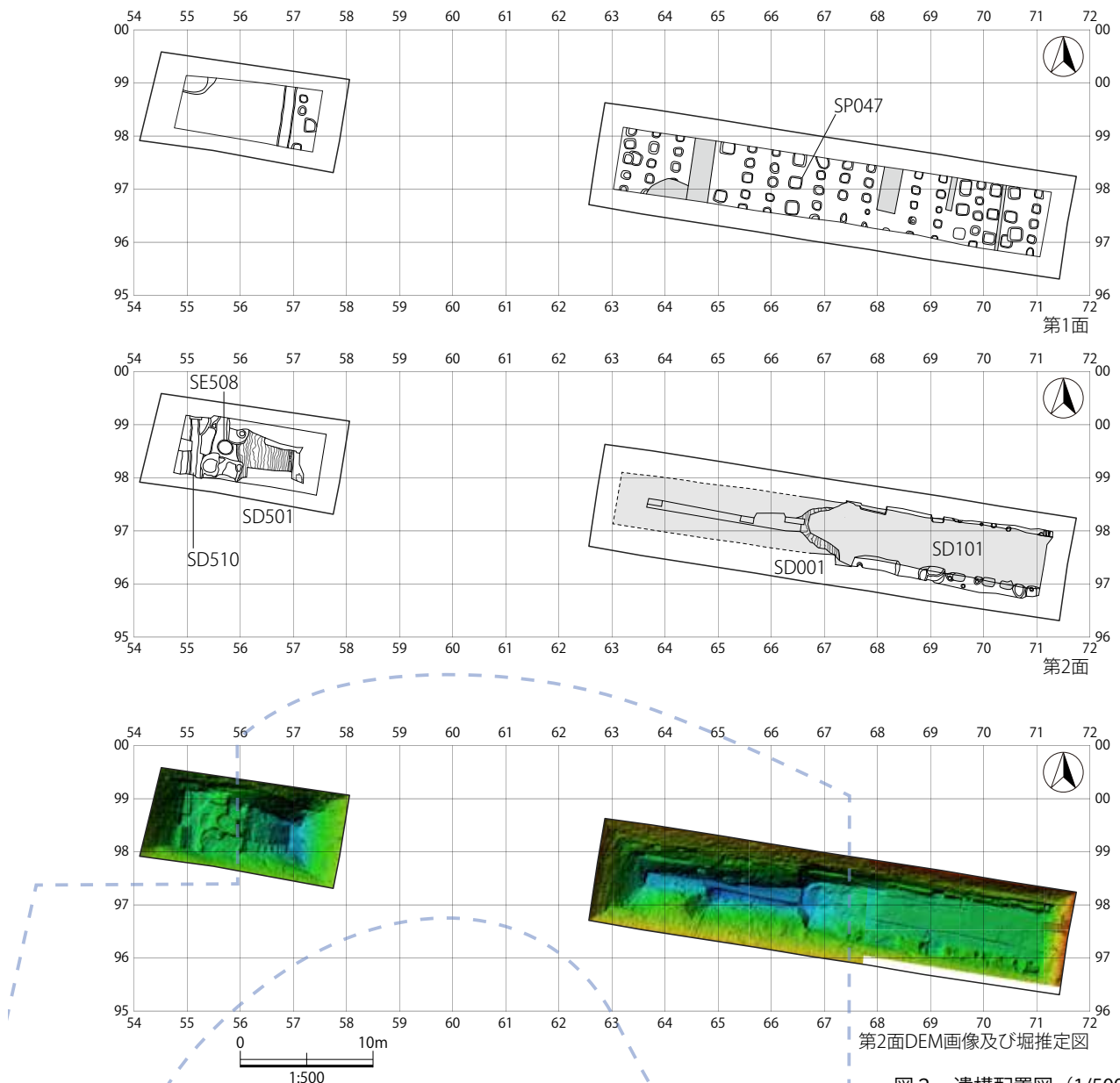


図2 遺構配置図(1/500)

西調査区で検出された堀（SD501）は現地表からの深さ約 3.5m、西側斜面の傾斜はおよそ 26 度である（写真 7）。東調査区で確認した東岸から、西調査区で確認した西岸までの距離は 47m である。七ツ蔵を囲む堀の北西部が北に突出して描かれる絵図が多く、検出した堀はその突出部にあたると考えられる（図 2 下）。

東西調査区の堀堆積土からは陶磁器や木製品等、近世の遺物が出土している。最下層から 17 世紀第 1 四半期に生産された肥前磁器（写真 12 左）が出土しており、寛永元年（1624）の七ツ蔵設置の記事と一致する。

SD501 堀の西側には堀埋没後の近代の遺構が多く分布するが、SE508 井戸が近世、SD510 溝が中世に遡る（写真 11）。SD501 溝の底面から 15 世紀の古瀬戸瓶子と青磁碗（写真 12 右）が出土している。



写真 1 第 1 面遺構検出



写真 2 根石土層断面



写真 3 SP047 礎石埋設状況

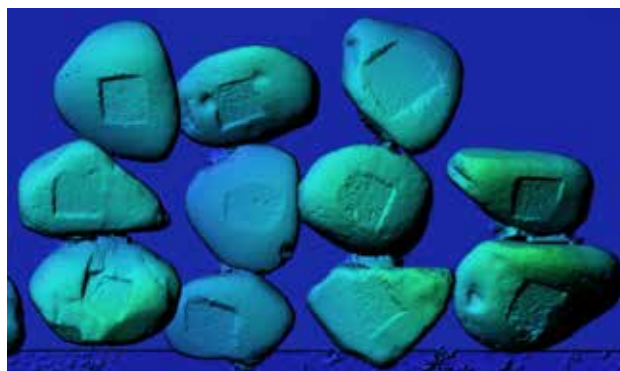


写真 4 柱部分が平坦に加工された礎石



写真 5 SD101 土層断面

まとめ

鶴岡南高等学校の前身である鶴岡中学校の遺構を確認した。出土した礎石には柱部分を平坦に加工する類例の少ない工法が認められ、当地域の近代建築の変遷を検討する上で貴重な成果となった。

見つかった堀は七ツ蔵を囲む堀の北端部にあたる。七ツ蔵堀は各時期の絵図に異なった形状で絵描かれているが、絵図と現在の地形を比較するための基準となる成果を得ることができた。

西調査区で 15 世紀代の遺構、遺物が出土した。鶴ヶ岡城跡周辺の発掘調査は城の南半部の調査が多く、中世の遺構、遺物も南半部で多く確認されていたが、城の北半部周辺にも大宝寺城期の遺構、遺物が分布していることが明らかとなった。



写真6 東調査区 SD001



写真7 西調査区 SD501



写真8 SD001 土層断面



写真9 SD001 東斜面検出



写真10 SD101・近世遺構



写真11 SD510・SE508



写真12 SD501 (左)・SD510 (右) 出土遺物

つるがおかじょうあと 鶴ヶ岡城跡 (第4次)

遺跡番号	203-044
調査次数	第4次
所在地	山形県鶴岡市馬場町地内
北緯・東経	38度43分40秒・139度49分35秒
調査委託者	庄内総合支庁建設部道路計画課
起因事業	街路整備事業（防災・安全交付金）3・6・1号道形黄金線
調査面積	153㎡
受託期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
現地調査	令和4年5月26日～10月31日
調査担当者	草野潤平（現場責任者）・高桑登
調査協力	鶴岡市教育委員会
遺跡種別	城館跡
時代	近世
遺構	土橋・堀・溝・土坑・柱穴・石列・性格不明遺構
遺物	土器・陶磁器・瓦・加工石材・金属製品・木製品・土橋部材（文化財認定箱数：16箱、土橋部材307点）



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

鶴ヶ岡城跡は、鶴岡市街地の中心に位置し、明治10年（1877）創建の庄内神社が鎮座する本丸跡と二の丸跡北側が鶴岡公園として整備されている（写真1・2）。都市計画街路の整備を推進する県道改良工事に伴って、山形地方裁判所鶴岡支部の西側153㎡（南北約33m）が調査対象となった。調査地点は鶴ヶ岡城二の丸大手（正面口）にあたる庄内神社の参道入口に近く、城門前を堀と土塁で囲んだ「馬出」と呼ばれる防御施設が見つかると思われた。馬出に伴う堀の底面は地表下3m近くま

で下がる可能性が高く、幅4mほどの狭い調査区で掘削箇所の安全な法面勾配^{のりめんこうばい}を確保することが困難であるため、調査区長辺に長さ9m以上の鋼矢板を圧入する仮設土留工事を行なったうえで発掘調査を実施した。

遺構と遺物

表土を除去すると地表下50cm前後の深さで明治時代の整地層が全面に広がり、調査区西辺において南北方向に並ぶ石列が検出された（写真3）。石列は所々壊され、とくに北側では石の抜き取られた箇所が目立つが、南側約6mにブロック状の加工石材を据えているほかは長径30～45cmの大きな河原石を使用している。石列裏側には握りこぶしより小さな円礫が詰め込まれ、当時の土地区画に関連する遺構と考えられる。

さらに50cmほど掘り下げたところで、二の丸大手馬出に伴う堀SD1と、二の丸堀との間に造られた土橋^{どぼし}SF10の東縁が確認された（写真4）。馬出の堀SD1は南北幅12.5m前後で、土橋上面から堀底最深部までの深さは約2.5mを測る。堀SD1の南側上層では、鶴ヶ岡城跡の南方8kmほどに位置する金峯山^{きんぼうざん}から切り出された花崗岩類（「金峯石」^{かこうがん きんぼういし}）が6個並んで出土し、廃城の際に崩された馬出の石垣石が明治9年（1876）の堀

の埋め立て時に置かれたものと考えられる（写真5）。急傾斜の堀南岸には乱杭が密に打ち込まれ（写真6）、堀・土橋の南端に桐木（石垣の基礎材）と思われる太い横木が据えられて馬出範囲との境が明瞭である（写真7）。土橋SF10の堀側にも南北方向に並ぶ2～3列の角杭・丸太杭を打って護岸としており、下層には軟弱地盤対策として細い杉の枝を厚く重ねる敷粗朶が施されていた（写真8）。杭は長さ30cm程度から3m近くまで、土橋だけで大小200本以上を数え、中には柄穴を穿つものなど建築部材を転用した杭も含まれる。これらの杭は一度に打たれたものではなく、崩れた箇所しきそだの改修など時期差があると考えられる。杭列の裏側には厚さ2cmの横長板材を2～8段立て重ね（写真9）、その内側に玉石を積み上げる構築方法がとられていた。玉石積みの下には堀SD1の最下層が堆積し、その西側に玉石を含まない盛土の高まりとこれに伴う杭列が存在することから（写真10・11）、土橋SF10の構築には玉石積みによる改築以前の段階があると判明した。堀・土橋では、土器・陶磁器や銚・煙管などの金属製品、

漆器・下駄などの木製品といった近世の遺物が出土しており、土橋改築前の堀底で16世紀末～17世紀初頭の肥前陶器碗、改築後の玉石積み部分で17世紀後半の肥前磁器小坏、土橋改修時の砂利層で18世紀後半の肥前染付碗など、二の丸大手門前の詳細な変遷を裏付ける資料が見つまっている。

また堀・土橋範囲を除く調査区北側・南側の下層では、鶴ヶ岡城以前の溝・土坑・柱穴などが検出され（写真12）、15世紀に位置づけられる龍泉窯青磁碗・盤などの出土から、室町時代初期に武藤氏が築いた大宝寺城に関連する中世の遺構と考えられる。

まとめ

これまで鶴ヶ岡城の正面口にあたる二の丸大手馬出の姿は絵図でしか知ることができなかったが、今回の発掘調査によって実際の位置や平面規模、堀の傾斜・深さなどをはじめ把握することができた。

また、土橋の具体的な構築方法や変遷、部材の特徴、地盤改良の工夫なども明らかとなり、酒井家庄内入部400年の節目を飾るにふさわしい重要な成果と言える。



写真1 調査区遠景と鶴岡公園（北東から）



写真2 調査区周辺（北から）



写真3 明治時代の石列検出状況（南東から）



写真4 二の丸大手馬出に伴う堀・土橋の検出状況（南から）



写真5 堀SD1南側上層の金峯石出土状況(西から)



写真6 堀南岸の堆積状況と乱杭検出状況(北西から)



写真7 馬出北端の桐木・遺構検出状況(北西から)



写真8 土橋SF10の堀側下層に施された敷粗朶(東から)



写真9 土橋の杭列・板材(西から:手前は玉石除去状態)



写真10 堀・土橋中央部の東西方向断ち割り断面(北から)



写真11 堀SD1および改築後土橋の完掘状況(北東から)



写真12 調査区南側下層の遺構検出状況(南から)

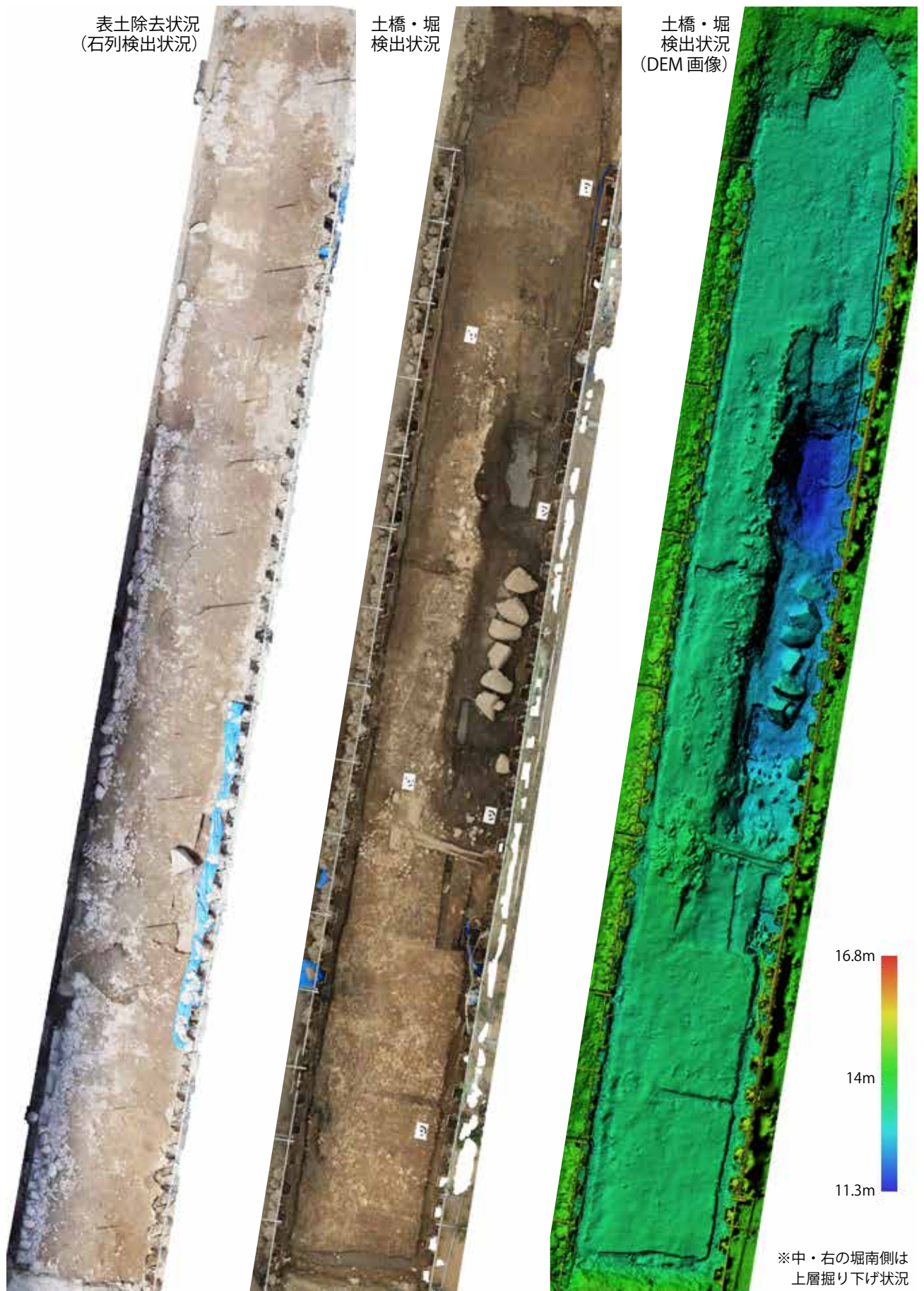


図1 遺構検出状況の調査区オルソ画像（上が北）

やまがたじょうさん まる 山形城三の丸跡（第23次）

遺跡番号	201-003
調査次数	第23次
所在地	山形県山形市本町1丁目外
北緯・東経	38度15分2秒・140度20分6秒
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起因事業	山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線
調査面積	1,250㎡
受託期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
現地調査	令和4年6月6日～11月25日
調査担当者	渡辺和行（現場責任者）・小林圭一・齋藤健
調査協力	山形市企画調整部文化振興課
遺跡種別	集落跡・城郭跡
時代	奈良・平安・中世・近世
遺構	竪穴建物・土坑・石組み遺構・柱穴
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・金属製品（文化財認定箱数：39箱）



遺跡位置図（S = 1:50,000）

調査の概要

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線における昨年に続いての調査である。また、山形城三の丸跡においては当センターで行う23回目の調査となっている。

昨年度は、1から4の調査区を設定し、6月21日から10月29日まで830㎡に対して調査を行った。調査の結果、古代から近世までの遺構・遺物を確認した。1区からは、16世紀末～17世紀初頭の陶磁器類が出土している。最上義光が統治していた時期であり、江戸時

代初期である。2～4区では、近世後半の遺物や遺構が検出されている。堀田氏時代の赤瓦なども出土した。また、奈良・平安時代の竪穴建物跡も見つかっており、特に2区と4区では、8m四方もある大型の竪穴建物が見つかっている。当時の一般的な住居の大きさが4m四方程度であることを考えると検出された竪穴建物の大きさは際立っている。一般的な住居とは違った使い方をされていた可能性が指摘できる。

今年度も調査区を4区画設定し、5～8区として調査を行った。

遺構と遺物

5区は、近世の遺構が良く残っており、石を重ねて構築した井戸等が検出された。山形城三の丸跡では近世に入ると石を構築材として利用する状況が多く確認できる。特に5区の南側で検出された井戸は井戸枠を石で構築しており、2m60cm以上の深さがある。遺物は近世後半の陶磁器類が出土している。全て覆土からの出土であるため、それ以前に使用されていた井戸と考えられる。井戸の周辺からは同様に石を四方で積み上げ囲った遺構も見つかっている。こういった遺構は円形の物も含め、三の丸の調査で度々検出されており水場関係の遺構

ではないかと推測されている。この遺構も近世後半の遺物が出土しているため先ほどの井戸と同時期に使用されていたと考えられる。さらには、石を廃棄した2mほどの深さを持つ大型の土坑も確認されている。覆土には直径20cm～30cm程度の石も含まれており、石を使用した何らかの遺構を壊しうめたものと想定できる。土坑の深さを考慮すると井戸であった可能性がある。

その他に柱穴や土坑が検出されている。それらの遺構から出土した遺物のほとんどが近世後半の陶磁器類や瓦などである。これらの遺構は井戸も含めて同時期に存在していたと考えられる。また、奈良・平安時代の竪穴建物も2棟確認されている。遺構のほとんどが近世の遺構に壊されており、一部分が残存している状態であった。

6区では北側に大きな土坑が検出された。調査区内で検出できたのは半分にも満たないため、遺構の性格は不明である。瓦や陶磁器が出土しており、近世後半のものと考えられる。6区は近世以降の開発により、削平を受けたと考えられ、中央から南側では遺構があまり確認されなかった。西側には数基確認出来ており、続く道路下には遺構が残っていると考えられる。

7区では上層で近世・近代の遺構・遺物、下層では奈良・平安時代の遺構・遺物が出土された。上層では5区で見られたような石組遺構や、地下施設と考えられる遺構が確認されている。地下施設と考えられる遺構の中には土止めのための板と杭の痕跡を確認できるものもみられた。また、近代以降に構築された石組み遺構では内側になる石を割って面を作り出す加工などもみられた。遺物は近世後半や明治期のものが多く出土している。下層では、竪穴建物が2棟見つかり、いずれも4m四方の一般的な大きさの建物である。遺物の年代から奈良時代後半から平安時代初期に埋没したと考えられる。床の一部に粘土などを用いて凹凸をなくした張り床が2棟ともに確認できた。また、調査区北側で検出した竪穴建物ではカマドのほとんどが近世の遺構により壊されていたが、長胴鍋の底部を逆位にし支柱にしたとみられる状況が確認出来た。柱は建物内部で検出された。貼り床を貼る前に柱を建て建物を放棄する段階に抜き取ったと考えられる痕跡がみられた。南側で検出した竪穴建物では、カマドと煙道が確認できた。カマドは南東隅に設けられており、袖の芯材として直径約40～50cmの石が

使用されていた。石は貼り床を貼る前に据え付けられており、カマドの位置は建物を構築する初期段階で位置決めされていたことを指摘できる。また、芯材を粘土質の土で覆ってカマドとしており、この段階で焼土の硬化面が確認出来た。また、さらにその後に黒色土と黄色の粘土を混ぜた土で再構築したような状況も確認出来た。この建物は柱が内部に確認出来なかった。外に建てた柱で屋根を支えていたとみられる。

8区では南側で河川跡が検出された。遺物は少なく、平安時代の須恵器1点が出土しているのみである。この河川は平安時代に埋没した可能性を指摘できる。北側では土坑や溝跡が検出された。特に北側中央の土坑からは近世前半の瓦や陶磁器が出土している。この地区は、昨年調査した1区に隣接した調査区であり、昨年度も近世前半に属する遺物が出土している。

昨年度及び今年度の調査で、各時代及び時期による土地利用の状況が見えてきたといえる。今後、今まで調査された三の丸のデータを含め、慎重に検討を行いたい。

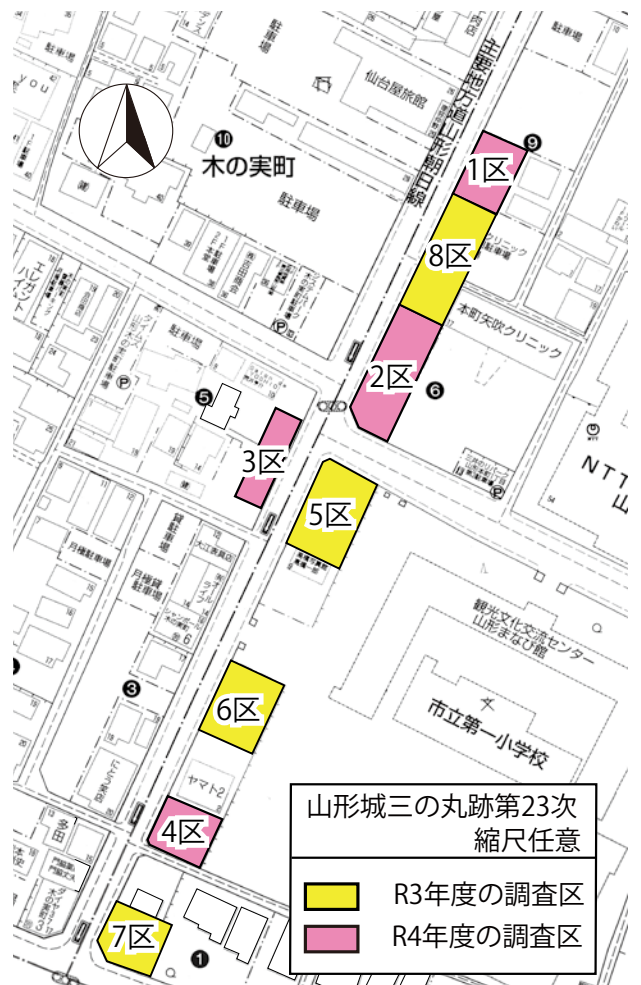


図1 山形城三の丸第23次調査区概要図



図2 5区完掘の全体オルソ図（上が北）縮尺任意



写真1 5区：井戸跡 SE327



写真2 5区：土坑 SK310 遺物出土状況

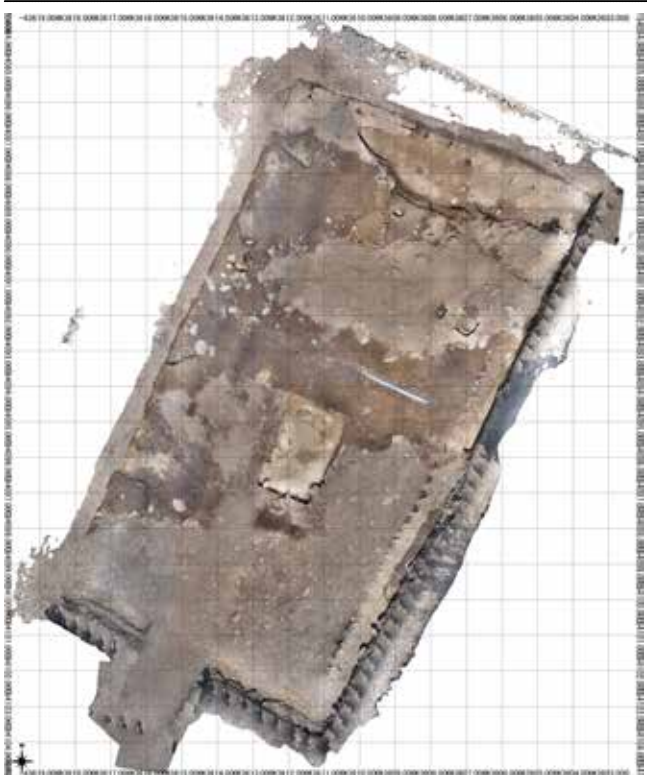


図3 6区完掘のオルソ図（上が北）縮尺任意



写真3 6区：性格不明遺構 SX200 完掘状況



写真4 6区：性格不明遺構 SX200 土層堆積

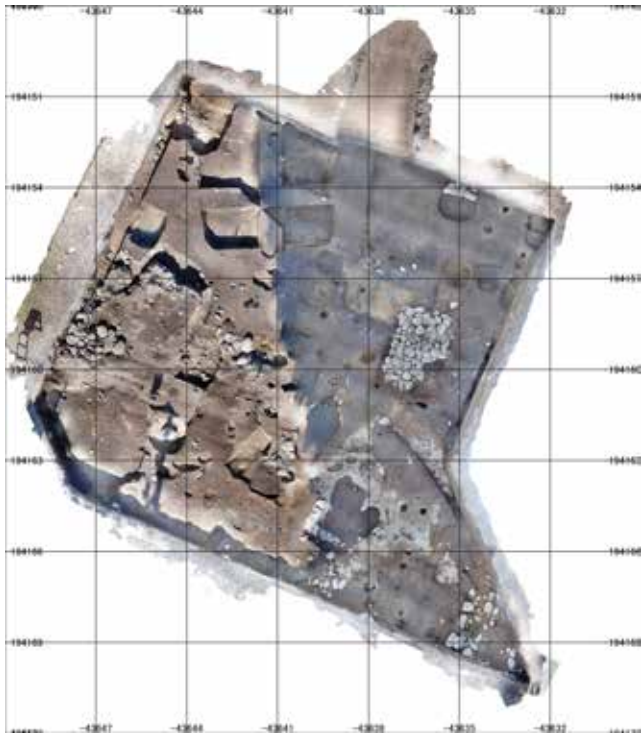


図4 7区南完掘の全体オルソ図（上が北）縮尺任意



写真5 7区南：竪穴建物 ST458 床面検出状況



写真6 7区南：竪穴建物 ST455 カマド

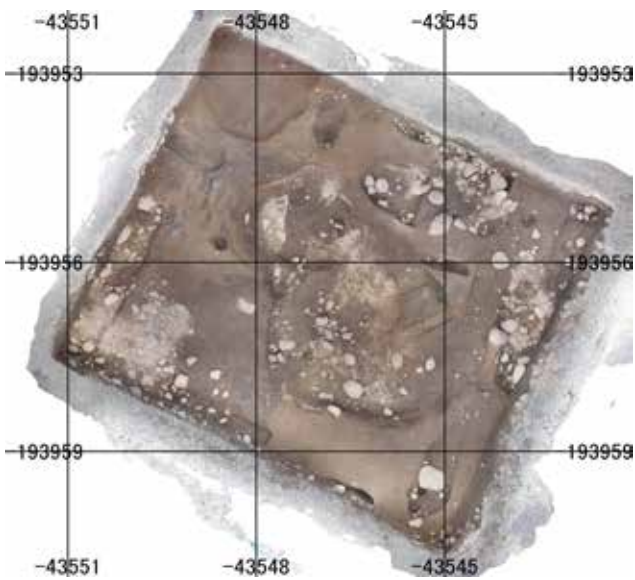


図5 8区北完掘の全体オルソ図（上が北）縮尺任意



写真7 8区北：性格不明遺構 SX516 土層堆積



写真8 8区北：性格不明遺構 SX516 土層遺物

遺跡番号	201-323
調査回数	第3次
所在地	山形県山形市大字青柳字吉本木地内
北緯・東経	38度18分1秒・140度21分56秒
調査委託者	村山総合支庁建設部道路課
起回事業	一般県道東山七浦線
調査面積	3,280㎡
託期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
現地調査	令和4年5月18日～10月28日
調査担当者	天本昌希(現場責任者)・齊藤主税
調査協力	山形市企画調整部文化振興課・一本木土地改良区
遺跡種別	集落跡
時代	奈良時代、平安時代、中世
遺構	掘立柱建物・鍛冶炉・火葬墓・土坑・柱穴・河川跡
遺物	須恵器・土師器・金属製品 (文化財認定箱数：16箱)



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

北向遺跡は山形市の北東部の楯山地区に位置する古代の集落遺跡である。本遺跡範囲を横断する県道東山七浦線の建設に伴い、当センターが既に2回の調査を実施しており、今回で3回目の調査となる。また、この道路に接続する市道部分を山形市教育委員会が調査しているため、遺跡全体では4回目の調査となる。これまでの調査では、奈良・平安時代を中心に74棟の竪穴建物が検出されている。

今回の調査区は、センター第2次調査の南西側に隣接した3,280㎡を対象に実施した。調査区の大部分は幅広の旧河川上にあつたと考えられ、前回までの調査のように竪穴建物が密集する状況ではなかった。

旧河川は調査区よりも幅広く、土色変化が乏しいため、その範囲の特定が困難である。扇状地下位に立地し、遺構確認面で礫層が水平ではなく、波打つように検出されることも遺構検出を困難にさせている。河川覆土には全体的に土器片が含まれているが、場所によって疎密があり、一部には完形個体を含め、集中して出土する地点を確認した。これは河川の蛇行地点などの淀みに遺物が溜まったものと解釈している。集中出土地点の遺物に見られる摩耗痕は大きくはないため、遠くから運ばれたものではなく、近場に生活域があつたと推測される。

出土遺物は8世紀中葉から9世紀後半のものであり、これまでの調査結果と同じ範疇に収まる。同一の集落からの流れ込みと判断できよう。ただし、河川覆土からの出土状況は、新旧入り交じっており、堆積層位に年代差を反映することはできない。

下層の遺構の確認のため、数か所に深掘りを入れている。一部では礫層の下に黒色粘土層を検出したものの、

いずれからも遺構や遺物はみとめられなかった。この下層の粘土層には有機物が多数遺存しており、得られた木質試料を炭素年代測定にかけたところ、調査区中央部のもので6～7世紀（基本土層E）、東側で5～6世紀（基本土層D）という結果を得ている。この上位で出土している古代の遺物は、新しいもので9世紀後半代のものであり、よって下層の粘土層と上層での遺物出土層を埋める礫層は5～9世紀後半の堆積と解釈できる。

遺構は調査区中央から西側に偏って分布している。これは9世紀以後河川が埋没し、陸地化した場所を利用したものと解釈できよう。ここからは鍛冶遺構と判断される鉄滓の出土した被熱土坑SL2や、火葬墓と考えられる骨片と焼土を含む土坑SL83などが見られる。これらの遺構や、その他の土坑、柱穴から得た木質試料の炭素年代を測定したところ、概ね13～14世紀に収まる結果が出ている。この時期に至るまで調査区域は、ほぼ全域河川中にあつたと推測できよう。

調査区の西側では幅広の礫層帯が現地表付近まで傾斜して見られる。この礫層帯のさらに西側は、旧河川から外れていたと思われ、土質がやや異なり、遺構確認面中

に縄文晩期や古墳時代のものが散見されるようになる。調査区の西端ではSB87掘立柱建物を検出した。2間3間になるかと想定される規模のもので、調査区外へ延びるものの、他のピット群との重複もなく、良好な検出状況を得ている。近隣に廃棄土坑SK85があり、SB87に関連するものと考えている。出土遺物からすると9世紀初頭のものである。

まとめ

北向遺跡第3次調査では、調査区に沿うように旧河川が走っており、従来の調査のように竪穴建物が多数重複する状況ではなかった。とはいえ河川からの土器の大量出土は、近隣に濃密な生活空間の存在を示唆するものである。これまでの調査をふまえると、集落の中心は遺跡範囲の北東側に展開していることが予想され、今回の調査は集落の縁辺の様相を示すものといえよう。

旧河川の埋没については、出土資料と炭素年代測定値から詳細な過程を追うことが可能である。今回の調査では河川下位での遺物出土を確認できなかったものの、近隣には下層の炭素年代と同時期の古墳の存在も知られており、慎重な対応が求められる。



写真1 調査区全景空撮



写真2 遺構検出風景



写真3 旧河川遺物集中地点出土状況



写真4 旧河川底面検出状況



写真5 旧河川底面遺物出土状況



写真6 SL2 鍛冶炉調査状況



写真7 SL83 火葬墓断面



写真8 SB87 掘立柱建物跡検出状況



写真9 SK85 土坑遺物出土状況

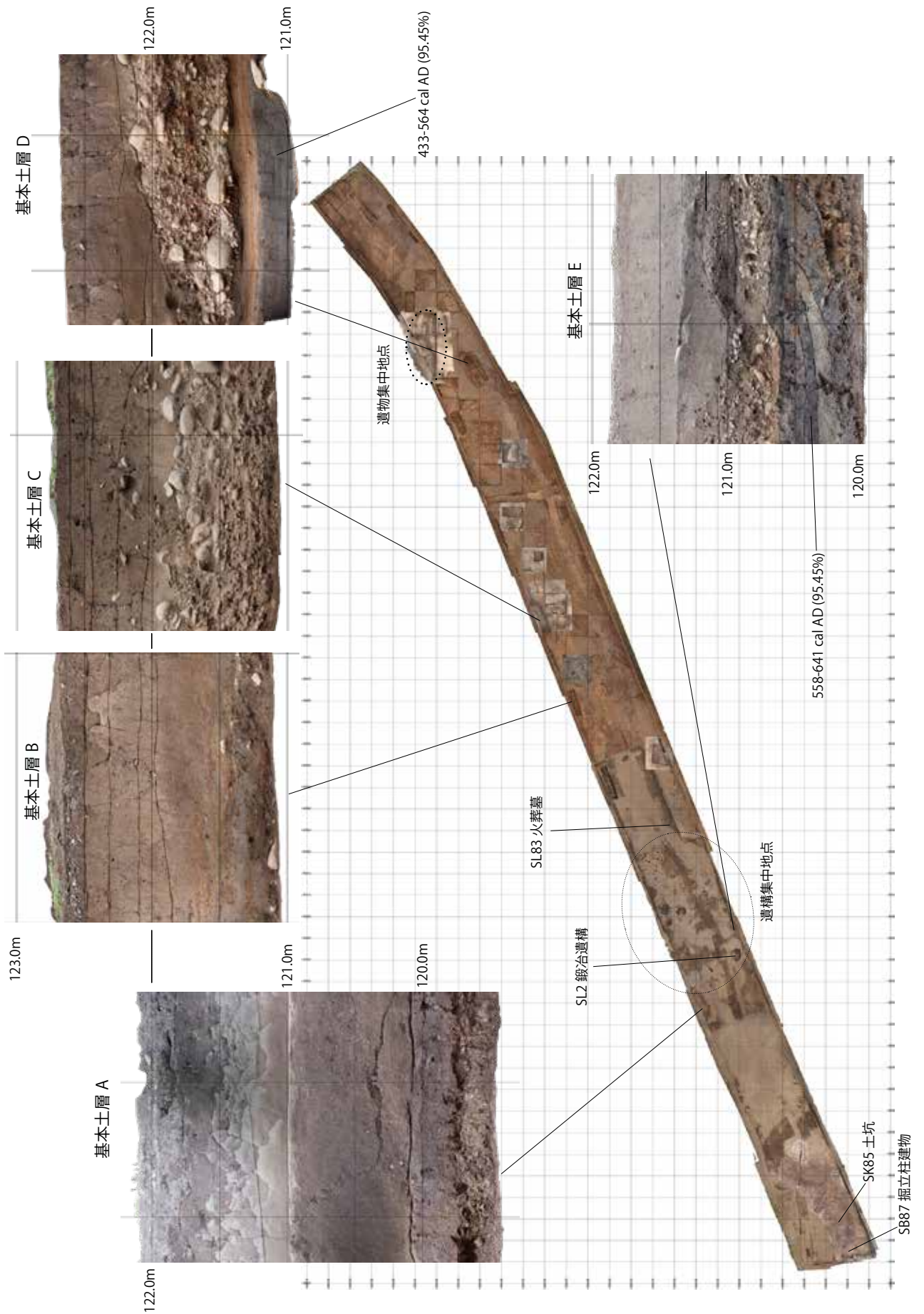


写真 10 北向遺跡第 3 次の調査区全体オルソ合成図 (S=1/1000)、基本土層 (S=1/40)

はら うち 原の内A遺跡（第4次）

遺跡番号 212-029
調査回数 第4次
所在地 山形県尾花沢市鶴子字原の内
北緯・東経 38度33分49秒・140度29分28秒
調査委託者 山形県観光文化スポーツ部文化財活用課・山形県村山総合支庁産業経済部北村山農村整備課
起因事業 農地整備事業（経営体育成型）鶴子六沢地区
調査面積 690㎡
受託期間 令和4年9月1日～令和5年3月31日
現地調査 令和4年10月3日～11月30日
調査担当者 植松暁彦（現場責任者）・氏家信行
調査協力 尾花沢市教育委員会・鶴子六沢土地改良区
遺跡種別 集落跡
時代 縄文
遺構 土坑・溝跡・柱穴・川跡・捨て場
遺物 縄文土器・石器・土偶・土製品（文化財認定箱数：138箱）

調査の概要

原の内A遺跡は、奥羽山地の麓の尾花沢市鶴子に位置し、丹生川左岸の河岸段丘上に立地する。今回の調査は、昭和55年（1981）、昭和57年（1983）、昭和62年（1988）に続き、第4次調査となる。従来の調査では、縄文時代と古代の集落跡が発見され、特に今回調査の西約50mに近接する第3次調査では縄文時代中期の堅穴住居跡やフラスコ状土坑群、列石などが確認された。

第4次調査は、農地整備事業の用排水路工事に伴い、遺跡の東縁部が初めて調査され、南北に細長いL字形の調査区となる。調査区では、中央部（3区中央）で縄文時代の大谷（SG20）が発見され、それを境に南側の主に標高の高い地区（1・2区）で縄文時代中期の溝状遺構や土坑、柱穴、小谷跡、大谷の北側の標高が低い地区（3区北半）で、土坑や柱穴、風倒木などが検出された

遺構と遺物

第4次調査では、調査区中央部で幅約20mの西流するSG20大谷が発見された。SG20大谷は、南北両端が深く、縄文時代中期の土器片が単発的に出土した。

SG20大谷の南側の高地では、SK5土坑・SD6溝跡、SX7風倒木痕などが発見された。特にSD6溝跡は、長さ4m以上、幅約3m、深さは約1mを測り南北方向に



遺跡位置図（S = 1:50,000）

走行する。多量の縄文時代中期前葉（約5,000年前）の土器群が土圧により倒壊した状態で出土した。また、頁岩製の狩猟具（石族・石槍）・加工具（石錐・石匙・石ベラ・搔器・削器）と共に、磨製石斧、凹石や磨石が多く、他に土偶も出土した。なお、SD6溝跡はSK5・SK13土坑と重複し、3時期以上の変遷が窺えた。

更に、その東側では、一段低く集落を区切るSG15・16・17小谷跡が東側に傾斜し分布する。特にSG15谷跡は、長さ9m以上、幅約3.5m、深さ約1.2mの規模で、西から東に開口する。縄文時代前～中葉（約4,500年前）

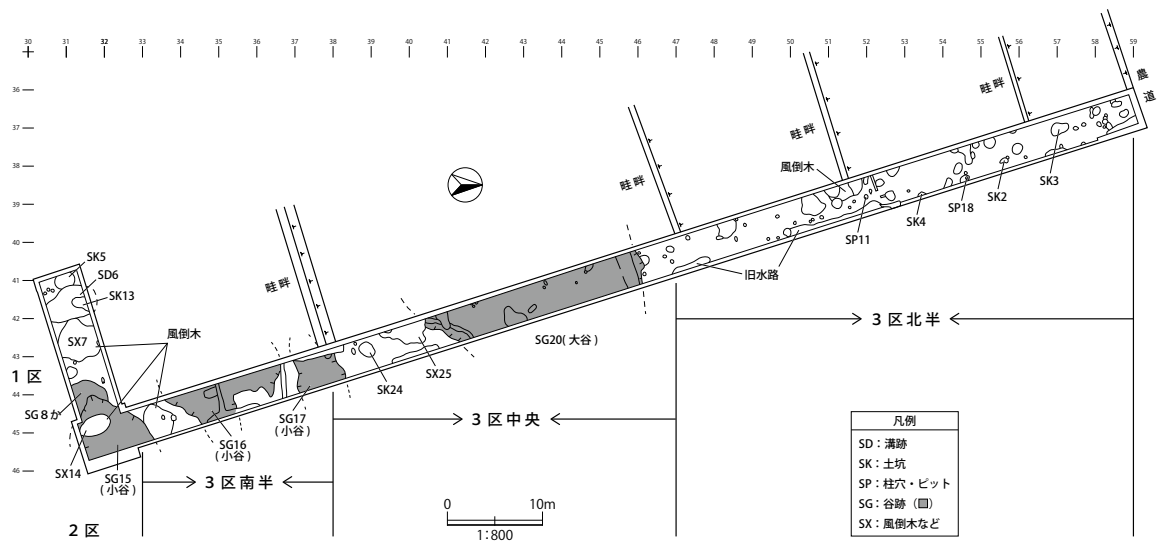


図1 遺構配置図

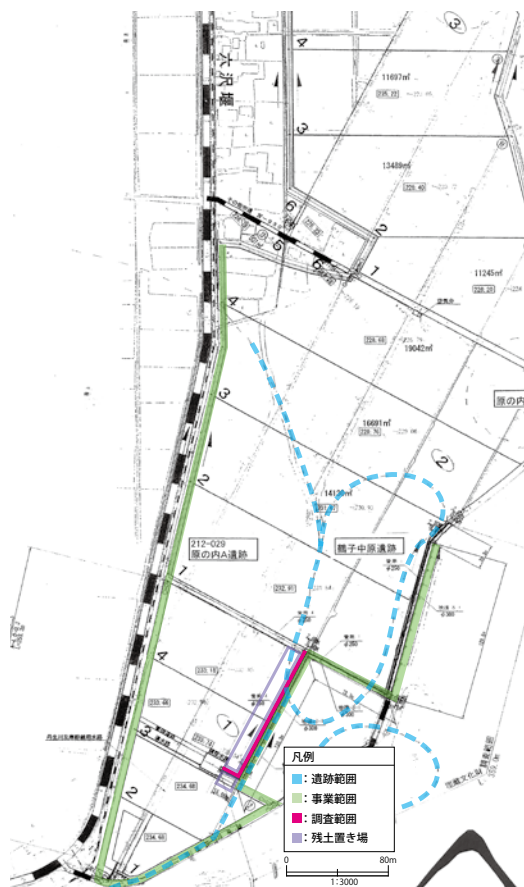


図2 調査概要図 (S = 1:3,000)

の多量の遺物が出土し、SD 6 溝跡と同じ機能が考えられた。小形の西ノ前型土偶や県内で希少な三角溝形土製品など祭祀具、耳栓形土製品の装飾具も出土した。

SG20 大谷北側の調査区北半では、土坑や柱穴、風倒木痕が単発的に検出された。これらからは、SD 6 溝跡やSG15 谷跡と同時期の縄文土器片などが出土した。

まとめ

第4次調査は、遺跡(集落)範囲の東縁部にあたる。

調査区南側は、土坑など存在から前回調査までの集落主体部の延長と考えられ、遺構の重複関係から、集落外縁においても長期に渡り当時の活動があったことが窺えた。また、SD 6 溝跡とSG15 谷跡では、多量の遺物が出土し、当時の廃棄場である所謂「捨て場」の性格が推測された。そして、両者の新旧から「捨て場」が集落の内部から徐々に外縁に移動する様相も推測された。他に、多数の土器と共に、凹石・磨石が多く出土し、当時集落周辺に豊富だった堅果類の活発な利用が推測される。

一方、調査区中央部のSG20 大谷は当時の集落を区切り、調査区北側は遺構分布が希薄で、集落北東縁部の様相の一端を示すものと考えられる。



写真1 調査区近景(南より)



写真2 調査区南半のSD 6・SG15 完掘状況(南より)



写真3 SD 6 溝状遺構の上層の遺物出土状況(南より)



写真4 SD 6 溝状遺構上層の縄文土器(波状口縁)出土(西より)



写真5 SD 6 溝状遺構中層の縄文土器の出土状況(東より)



写真6 SD 6 溝状遺構下層の遺物出土状況(南より)



写真7 SG15 谷跡の遺物出土状況(西より)



写真8 SG15 谷跡の縄文土器(キャリパー型)出土状況(北より)



写真9 SG15 谷跡の土偶(西ノ前型) 出土状況(東より)



写真10 SX14 風倒木痕の三角溝形土製品(東より)



写真11 SG15 谷跡床面の遺物出土状況(東より)



写真12 SG20 大谷の精査状況(北東より)



写真13 調査区北半の土坑・ピット群の完掘状況(北より)



写真14 土偶・土製品・石製品の集合写真



写真15 石器(石鏃・石錐・石匙・石ペラ・磨製石斧)



写真16 凹石の集合写真

中野目Ⅱ遺跡

遺跡番号 201-135

調査担当者 齋藤健・高桑弘美

所在地 山形県山形市大字中野目

遺跡種別 集落跡

調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所

時代 古墳時代・平安時代・近世

起回事業 須川河川改修事業

受託期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

現地調査 平成30年5月21日～11月5日

作業工程表		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作業項目	記録類整理												
	遺物洗浄	完了											
	注記	完了											
	接合・復元												
	実測												
	拓本												
	トレース												
	写真撮影												
	編集・レイアウト												
	原稿執筆												
	遺物・記録類収納												
	印刷・製本												



記録類整理



図面整理



写真整理



遺物整理



接合



接合



復元



復元



復元

杉沢C遺跡（第1・2次）

遺跡番号 461-145 現地調査 令和2年8月18日～11月20日(第1次)
 所在地 山形県飽海郡遊佐町杉沢字北ノ前・中田地内 令和3年6月22日～9月10日(第2次)
 調査委託者 山形県観光文化スポーツ部文化財活用課 調査担当者 菅原哲文
 庄内総合支庁産業経済部農村整備課 遺跡種別 集落跡
 起因事業 農地整備事業（経営体育成型）杉沢前田地区 時代 縄文時代・中世・近世
 受託期間 令和4年5月1日～令和5年3月31日

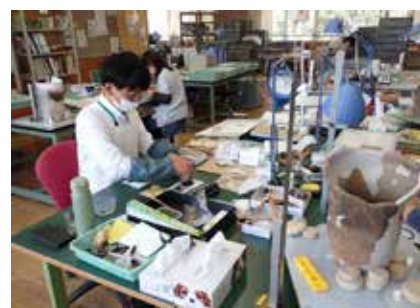
作業工程表	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
記録類整理	完了											
遺物洗浄	完了											
注記	完了											
接合・復元			完了									
実測			完了									
拓本				完了								
トレース							完了					
写真撮影					完了							
編集・レイアウト										完了		
原稿執筆										完了		
遺物・記録類収納												完了
印刷・製本												完了



復元



実測



拓本



トレース



写真撮影



写真図版編集



図版編集



遺物収納



印刷・製本

2. 普及啓発業務

(1) 受託事業

① 出前授業

	実施日	学校(団体)名	人数
1	5月13日	村木沢小学校(山形市)	17
2	5月17日	高揃小学校(天童市)	44
3	5月24日	東部小学校(米沢市)	98
4	5月25日	東郷小学校(三川町)	18
5	6月1日	湯野浜小学校(鶴岡市)	20
6	6月9日	大郷小学校(山形市)	34
7	6月10日	浜中小学校(酒田市)	16
8	6月15日	松陵小学校(酒田市)	33
9	6月16日	宮宿小学校(朝日町)	26
10	6月21日	第五小学校(山形市)	47
11	6月24日	大久保小学校(村山市)	13
12	6月28日	広野小学校(酒田市)	16
13	6月30日	滝山小学校(山形市)	116
14	7月1日	上山小学校(上市市)	60
15	7月12日	第二小学校(飯豊町)	18
16	7月21日	宮内小学校(南陽市)	54
17	10月29日	山辺町立山辺小学校(山辺町)	8

(4年度実績 17ヶ所開催 638名)



② 発掘調査速報会

	実施日	会場	人数
1	3月5日	山形県生涯学習センター 遊学館(ホール)	120



③ 遺跡・史跡パンフレット作成

やまがたの遺跡・史跡めぐり Vol.2 (A3版2つ折り 両面印刷)

5,000部

④ 市町村巡回展示会

	実施日	会場	人数
1	7月26日～8月23日	長井市古代の丘資料館	514
2	10月12日～11月10日	山辺町ふるさと資料館	134
3	1月10日～2月8日	遊佐町生涯学習センター	150

(4年度実績 798名)



長井市古代の丘資料館



山辺町ふるさと資料館



遊佐町生涯学習センター

⑤ 体験学習会

	実施日	事業名	開催場所	人数
1	9月17日	発掘調査体験	山形市北向遺跡	16
2	11月20日	整理作業体験	山形県埋蔵文化財センター	25

(4年度実績 41名)

発掘調査体験



整理作業体験



⑥ 遺跡体感ツアーリズム

実施日	事業名	開催地	人数
1 9月25日	遺跡体感ツアーリズム in 左沢楯山城跡	大江町左沢	24

(4年度実績 24名)



⑦ SNS 情報発信

Twitter により山形県埋蔵文化財センターの普及啓発活動やイベント等の案内を発信

⑧ 出土品貸出等

ア. 出土品貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	東根市教育委員会	東の杜（歴史資料館）展示のため	4月1日～5年3月31日	小田島城跡	7
2	寒河江市教育委員会	史跡慈恩寺旧境内ガイダンス交流拠点施設「慈恩寺テラス」展示のため	4月1日～5年3月31日	上の寺遺跡	11
3	舟形町教育委員会	舟形町歴史民俗資料館及び縄文の女神まつり展示のため	4月11日～11月30日	西ノ前遺跡	64
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和4年度特別テーマ展「高瀬山の考古学」展示のため	6月3日～9月15日	高瀬山遺跡	467
5	山形市立明治小学校	社会科学習の資料として	6月20日～6月30日	渋江遺跡 ほか2遺跡	30
6	山辺町立相模小学校	社会科学習の資料として	6月27日～7月8日	宮の前遺跡 ほか2遺跡	6
7	新庄市ふるさと歴史センター	第239回企画展「大昔への誘い 新庄盆地の旧石器文化、縄文文化の隆盛、それ以降の推察」展示のため	7月8日～10月16日	中川原C遺跡	2
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和4年度企画展「最上地域の縄文時代」展示のため	7月22日～12月13日	西ノ前遺跡 ほか16遺跡	431
9	山形県立博物館	令和4年度プライム企画展「女神たちの饗宴」展示のため	8月10日～12月27日	西ノ前遺跡 ほか11遺跡	227
10	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア展示のため	9月15日～10月12日	小田島城跡 ほか2遺跡	101
11	仙台市富沢遺跡保存館	企画展「遺跡のミ・カ・タ」展示のため	12月7日～3月24日	八反遺跡	1
12	最上義光歴史館	「出土した陶磁器」展示のため	1月5日～4月2日	米沢城跡 ほか4遺跡	275
13	福島県立博物館	企画展「Go!Go!5世紀ー東北中・南部の古墳文化ー」展示のため	3月17日～7月14日	百刈田遺跡	13

イ. 資料掲載許可

No.	許可先	借用目的	資料名	数量
1	山形県立博物館	令和4年度プライム企画展「女神たちの饗宴」リーフレットに掲載のため	西ノ前遺跡ほか 11 遺跡	12
2	(公財) 日本漢字能力検定協会	学会通信「漢字の窓」掲載のため	上高田遺跡	1
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	令和4年度特別テーマ展「高瀬山の考古学」展示のため	高瀬山遺跡	44
4	読売新聞山形支局	国宝土偶「縄文の女神」が発掘から30年を迎える記事に掲載のため	西ノ前遺跡	2
5	鈴鹿市考古博物館	令和4年度企画展「いにしえのすずか歴史発掘！」図録掲載のため	堂の前遺跡	3
6	多賀城市埋蔵文化財調査センター	令和4年度企画展「多賀城 いのりとまじないの世界」展示及びリーフレット掲載のため	俵田遺跡	1
7	山形考古学会	山形考古学会創立50周年記念大会チラシ掲載のため	西ノ前遺跡	1
8	西山形振興会	地域の歴史的資産史跡マップ掲載のため	坊屋敷遺跡	1
9	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェア展示のため	小田島城跡	8
10	最上町教育委員会	最上町ホームページおよび遺跡紹介看板に掲載のため	水木田遺跡	1
11	個人(山形県)	山形考古学会設立50周年研究大会の発表資料掲載のため	北柳1遺跡ほか7遺跡	16
12	西山形振興会	地域の歴史的資産史跡マップ掲載のため	坊屋敷遺跡ほか1遺跡	2
13	柏書房株式会社	書籍「土偶大辞典」掲載のため	上竹野遺跡ほか6遺跡	9
14	個人(東京都)	「国想い夢を紡いで」講演録掲載のため	上高田遺跡	1
15	仙台市富沢遺跡保存館	企画展「遺跡のミ・カ・タ」印刷物掲載のため	八反遺跡	27
16	株式会社第一学習社	高等学校地理歴史教材「最新日本史図表」掲載のため	吹浦遺跡	2
17	株式会社ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」掲載のため	鶴ヶ岡城跡	7
18	最上義光歴史館	「出土した陶磁器」展示のため	米沢城跡ほか4遺跡	12
19	職員	考古調査ハンドブック「環状列石」掲載のため	小林遺跡	1
20	寒河江市教育委員会	「寒河江市史要約編」掲載のため	高瀬山遺跡	8
21	職員	奈良文化財研究所のサイトにて文化財3Dモデルを公開するため	八反遺跡ほか7遺跡	8
22	個人(山形県)	立正博物館課程年報掲載のため	西海淵遺跡	1
23	福島県立博物館	企画展「Go!Go!5世紀—東北中・南部の古墳文化—」展示パネル・図録・広報資料に掲載のため	百刈田遺跡	9
24	株式会社ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」掲載のため	鶴ヶ岡城跡	3

ウ. 資料調査

No.	来所者	期日	対象遺跡
1	仙台市富沢遺跡保存館 職員	10月14日	八反遺跡
2	福島県立博物館 職員	10月26日	百刈田遺跡
3	出光美術館 職員	11月9日	小田島城跡
4	山形県県史資料室 職員	11月22日	坂ノ上遺跡
5	東北大学 大学院生	11月24日	清水西遺跡
6	奈良県立橿原考古学研究所 職員	11月25日	藤治屋敷遺跡
7	個人(新潟市)	12月5日 ～9日	袋冷遺跡・山楯遺跡・東興野B遺跡。福田山A遺跡・菖蒲江1遺跡・高嶺南遺跡・板橋2遺跡・一ノ坪遺跡・川前2遺跡・渋江遺跡・向河原遺跡・下柳A遺跡・お花山古墳群・山形西高敷地内遺跡・上大作裏遺跡・庚壇遺跡
8	東北学院大学 学生	2月13日 20日	水林下遺跡・清水西遺跡・太郎水野遺跡
9	島根大学 教員	3月16日	馬洗場B遺跡
10	東北大学 教員・大学院生	3月29日	水林下遺跡・清水西遺跡

(2) その他

① 調査説明会・調査成果一般公開

No.	市町村	遺跡名	公開期間	遺跡種別	見学者数
1	鶴岡市	鶴ヶ岡城跡(第3・4次)	8月11日	城館跡	50
2	遊佐町	水林下遺跡(第3次)	8月23日～25日	集落跡	2
3	山形市	山形城三の丸跡(第23次)	11月12日	城館跡	26
4	尾花沢市	原の内A遺跡(第4次)	11月12日	集落跡	65

② 来所者

No.	来所者	期日	人数	内容
1	個人(会津若松市)	4月1日	1	施設見学
2	個人(山形市)	4月7日	1	施設見学
3	個人(神戸市)	4月26日	1	施設見学
4	個人(長野市)	5月6日	1	施設見学

No.	来所者	期日	人数	内容
5	個人（山形市）	6月24日	1	施設見学
6	上山市キャリアスタートウィーク	6月28日 ～30日	5	職場体験
7	山形大学	7月9日	6	遺跡見学〈北向遺跡〉
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 職員	7月27日 28日	3	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
9	個人（東根市）	8月3日 4日	1	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
10	龍谷大学 学生	8月22日 ～26日	1	インターンシップ〈山形城三の丸跡〉
11	龍谷大学 学生	9月5日 ～16日	1	研修〈山形城三の丸跡〉
12	村山総合支庁職員	9月16日	6	遺跡見学・体験〈北向遺跡〉
13	東北芸術工科大学学生	9月16日	1	施設見学
14	大江町教育委員会	10月7日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
15	山形市立楯山小学校 5・6年生	10月12日	50	遺跡見学〈北向遺跡〉
16	中央大学 学生	10月25日 11月10日 11月17日	1	図書閲覧
17	山形市立第一小学校 6年生	10月26日	36	遺跡見学〈山形城三の丸跡〉
18	三重県埋蔵文化財センター	11月25日	2	デジタル技術の視察
19	株式会社パレオ・ラボ	12月6日	1	資料見学〈水林下遺跡〉
20	南陽市教育委員会	1月17日	3	施設利用（写真スタジオ・写真機材）
21	個人（愛媛県）	1月20日	1	施設見学
22	寒河江市教育委員会	3月1日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）

③ 職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
1	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	5月19日	舟形町文化財保護委員会及び歴史民俗資料館運営委員会
2	喜多方市教育委員会	喜多方市駒形地区公民館	小林圭一	5月25日	藤権現遺跡調査指導会議
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場正善	5月28日 7月9日 11月3日	「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」における石器づくり技術指導
4	古代城柵官衙遺跡検討会	東北歴史博物館	植松暁彦	6月17日	古代城柵官衙遺跡検討会世話人会
5	鶴岡市教育委員会	鶴岡公園	高桑 登 草野潤平	6月28日	鶴ヶ岡城跡調査出土遺物の調査指導
6	飽海地域史研究会	酒田市総合文化センター	植松暁彦	7月9日 8月2日	飽海地域史研究会通史講座及び史料講座
7	岩手県立博物館	岩手県立博物館	水戸部秀樹	7月10日	令和4年度日曜講座講演
8	酒井家庄内入部400年記念事業実行委員会	鶴ヶ岡城跡第3次調査現場	高桑 登	7月30日	「親子で参加！こども記者プロジェクト」における鶴ヶ岡城跡調査現場の現地説明
9	山形県	山形県庁	高桑弘美	9月13日	山形県文化財保護審議会
10	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	菅原哲文	9月25日	第24期考古学セミナー
11	山形県立博物館	山形県立博物館	菅原靖男	10月1日	令和4年度プライム企画展「女神たちの饗宴」の開展式
12	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	水戸部秀樹	10月2日	第24期考古学セミナー
13	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	小林圭一	10月9日	第24期考古学セミナー
14	山形県	天童市役所	高桑弘美	11月11日	山形県文化財保護審議会
15	佐世保市教育委員会	福井洞窟ミュージアム	大場正善	11月11日 ～13日	令和4年度どうくつ体験リレー講座
16	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	高桑弘美	11月15日	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館運営協議会
17	奈良文化財研究所	佐久市佐久平交流センター	大場正善	11月20日	香坂山遺跡出土石器分析と検討会への参加
18	山形県立博物館	山形県立博物館	菅原哲文 小林圭一	11月20日	プライム企画展「女神たちの饗宴」記念講演会
19	山形県立博物館	山形県立博物館	須賀井新人 黒坂雅人 梅津里枝 後藤枝里子	10月29日 30日	プライム企画展「女神たちの饗宴」記念イベント『体験！縄文の暮らし』
20	古代城柵官衙遺跡検討会	東北歴史博物館	植松暁彦	12月2日	古代城柵官衙遺跡検討会世話人会

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員	期日	内容
21	青柳地区自治会	青柳集会所	天本昌希	12月4日	青柳地区総会「北向遺跡講演会」
22	東北日本の旧石器文化を語る会	千歳市総合福祉センター	大場正善	12月17日	第36回東北日本の旧石器文化を語る会北海道大会
23	最上町町長	最上町	齊藤主税	2月8日 ～10日	全国高等学校総合体育大会
24	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	高桑弘美	2月15日	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館運営協議会
25	酒田市教育委員会	酒田市総合文化センター	植松暁彦	2月16日	酒田市文化財保護審議会
26	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所	水戸部秀樹	2月17日 18日	文化財3Dモデル公開に関する検討会
27	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	3月2日	舟形町文化財保護委員会及び歴史民俗資料館運営委員会
28	遊佐町教育委員会	鳥海文化ホール	植松暁彦	3月5日	ゆざ学講座講師
29	山形県	山形県庁	高桑弘美	3月16日	山形県文化財保護審議会

④ 啓発物品等貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	物品名
1	芭蕉、清風歴史資料館	特別展「縄文人のくらしを探る」展示のため	4月25日～6月13日	「縄文の女神」レプリカ
2	大石田町立北小学校	総合的な学習において、縄文時代の生活を体験するため	10月7日～10月14日	縄文原体セット・体験用石器 火起こしセット
3	福島市	「土偶フォーラム」にて展示	10月26日～11月22日	「縄文の女神」大型模型

⑤ 出版物

ア. 一般公開資料

書名	発行年月日
鶴ヶ岡城跡第3次調査現地説明会資料	2022年8月11日
鶴ヶ岡城跡第4次調査現地説明会資料	2022年8月11日
水林下遺跡現地公開資料	2022年8月23日
山形城三の丸跡第23次調査現地説明会資料	2022年11月12日
原の内A遺跡第4次調査現地説明会資料	2022年11月12日

イ. 調査報告書

シリーズNo.	書名	発行年月日
246	杉沢C遺跡第1・2次発掘調査報告書	2023年3月31日

ウ. その他

資料名	発行年月日
令和4年度年報	2023年5月8日
研究紀要 第15号	2023年3月31日

⑥ ホームページ

主な項目と内容は以下の通りです。

- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供
- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理事業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明会資料、研究紀要などの刊行物の紹介
- ・埋文やまがた web版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・発掘調査遺跡地図 埋蔵文化財センターがこれまで発掘調査し報告書を刊行した遺跡の紹介

(3) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業

ア 総会

期 日 令和4年6月16日～17日
会 場 群馬県高崎市（Gメッセ群馬）
派遣職員 専務理事 菅原靖男、事務局長 須賀井新人、総務主査 水戸部秀樹

イ ブロック会議

期 日 令和4年10月13日～14日
会 場 山形県山形市（山形県生涯学習センター遊学館）
派遣職員 専務理事 菅原靖男、事務局長 須賀井新人、総務主査 水戸部秀樹

ウ 研修会

期 日 令和4年11月1日～2日
会 場 長野県長野市（ホテルメトロポリタン長野）
派遣職員 専務理事 菅原靖男、事務局長 須賀井新人、総務主査 水戸部秀樹

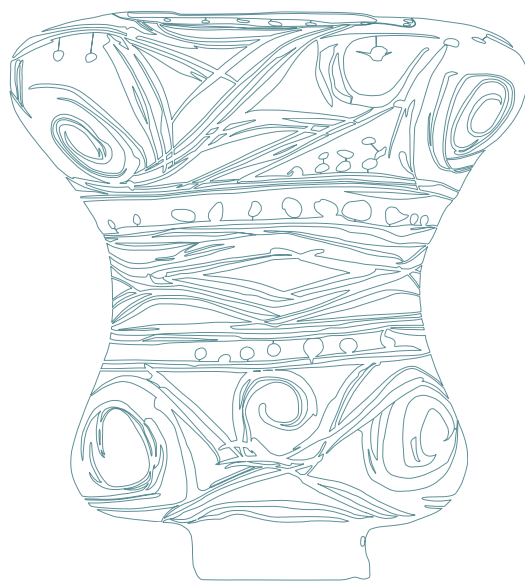
職員研修

ア 講座

期 日 令和5年3月9日
講 師 須賀井新人 事務局長
内 容 『平安時代の「国道」と「駅」－駅家木簡からの推定－』

(4) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 1,254冊のデータ入力実施（File Maker Pro 使用）



ISSN 1341 – 397X

年 報

令和4年度

2023年5月8日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
TEL 023-672-5301 (代)



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章としているこの
図柄は、

Yamagata

Archaeology

Center

の3つの頭文字をあしらったもので
す。特にYは、国宝「縄文の女神」
をイメージしています。